

《 解説 》

第一部

管絃 (かんげん)

音楽だけを楽しむもので、繊細な合奏が特徴。平安時代の貴族たちの嗜み「詩歌管絃」に由来します。

双調調子 (そうじょうのちょうし)

「調子」は「音取」と同様、楽器の音を整え、会場をその調子の雰囲気ですすめ役割りを持っており、楽曲に先だって演奏されます。笙 (しょう) と箏 (ひちりき) が「退吹」 (あめりぶき) (フリーリズムのカノン) で奏されるのが特徴です。双調 (ソの音を主音とする音階) は、新春に相応しいとされる調子です。

鳥急 (とりのきゅう)

「鳥」とは極楽浄土に住み、美しい声で仏法を説くといわれる「迦陵頻」 (かりょうびん) のことで、原曲は壱越調 (いちこつちょう) (シの音を主音とする雅楽の音階)、子どもが舞う愛らしい童舞 (わらわまい) の姿がよく知られています。双調に移調され、管絃曲として演奏されています。

酒胡子 (しゅこうし)

中国唐代、「酒胡子」という起き上がり小法師のような人形の玩具があり、酒宴の折、卓上でくると回し、それが倒れた側の人を酒を飲む、或いは何か芸をする、といったものだったようで、その時に奏されたといわれます。原曲は壱越調。

催馬楽 (さいばら) 新しき年

催馬楽は、平安時代、貴族たちが諸国の民謡を雅楽ふうアレンジして、管絃の中で取り上げて好んで歌っていた歌物 (うたもの) です。歌詞は「新しき年の始めにかくしこそ」、と新年を無事に平穩に迎えられた喜びに満ちた内容を歌っています。

芝 祐靖 作曲「管絃の為の即興組曲 招杜羅紫苑」より第三曲「招杜羅紫苑」 (しょうとらしおん)

「招杜羅紫苑」 (招杜羅とは戌の守り神といわれる) は、雅楽の新しい創造性を追求して、雅楽器の古典的奏法を生かしつつ、1980年に芝 祐靖が作曲した雅楽組曲で、その中より、薬師如来を護る十二神将の一つ、招杜羅をタイトルとした躍動感あふれる1曲をご紹介します。

第二部

舞楽 (ぶがく)

雅楽のうち舞を伴うもの。大きな行事で演じられ、豪華な装束やダイナミックな演奏が特徴です。

賀殿 破急 (かてん はきゅう)

原曲は九世紀にその楽譜を琵琶の名手、藤原貞敏 (ふじわらのさだとし) が唐から持ち帰ったとされている曲で、今日では壱越調の舞楽曲としてよく知られています。「破」と「急」の2楽章から成り、豪華な襲装束 (かさねしょうぞく) を着用した4人の舞人によるこの華麗な舞は、古来、曲名に因んで新築の建物のお祝いに演じられてきており、今回は、蕨市民会館の耐震工事終了で半年ぶりの開館を祝して舞います。

太食調音取、長慶子 (たいしきちょうのねとり、ちょうげいし)

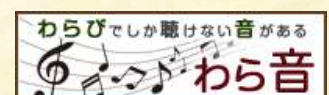
今日、映画やコミックの「陰陽師」 (おんみょうじ) で広く知られるようになった平安時代の管絃の名手、源博雅 (みなもとのひろまさ) の作曲と伝えられる曲で、古くから、舞楽会などの退出音声 (まかておんじょう) として、慶賀の気持ちを込めてよく演奏されてきました。

《 プロフィール 》

伶楽舎 れいがくしゃ

1985年発足の雅楽演奏グループ。音楽監督・芝 祐靖。雅楽の古典曲以外に、廃絶曲の復元曲や正倉院楽器の復元演奏、現代作品の演奏にも積極的に取り組み、国内外で幅広い活動を展開している。また、古典曲や現代曲、復元曲のCD等も多数録音。他に、解説を交えた親しみやすいコンサートやワークショップを開催、雅楽への理解と普及に努める。「伶楽舎」の名前は、「伶倫楽遊舎」即ち古代中国の楽人の祖とされる「伶倫」に因んで、現行の雅楽のみならず、廃絶曲や新作など、従来の枠にとらわれない幅広い活動を目指して付けられた会名。

<http://www.reigakusha.com>



※仮事務所地図



◆ 蕨市民会館「仮事務所」のご案内 ◆

「蕨市民会館」は平成30年1月6日まで耐震工事のため仮事務所にて営業いたしております。

受付時間 9:00~17:00 休業日 月曜日(月曜日が祝日の場合は翌火曜日) 年末・年始(12/29~1/3)

電話番号 048-445-7660 住所 蕨市中央4-21-8 ※仮事務所には駐車場のご用意はございません。